

# 現代青年の自己受容に関する分析(2)

—やさしさを中心とした性差の検討—

菱 田 陽 子

## 問 題

現代青年の自己受容に関する先の分析においては、調査対象の大半が女性であったため、性差の検討は行わず、青年全体の傾向を考察した(菱田2003a)。その中で現代青年の自己受容因子として抽出した「やさしさ」受容、「まじめさ」受容と諸特性との関係が、他の自己受容因子と諸特性との関係とは異なることが判明し、更にこれについて吟味する必要があると考えた。即ち、自己受容には、精神的有能性(成熟性)が大きく関わると考えられたが、「やさしさ」受容も「まじめさ」受容も精神的有能性とは関連しなかった。これは、青年の「やさしさ」「まじめさ」に対する受け止め方によるものと考えられる。青年が精神的に有能で成熟しているか否かにかかわらず、すべての青年にとって「やさしさ」「まじめさ」が重要なものであるか、或いは軽く考えられているのかによるのではないかと考えられた。

本研究では、先の研究で明確に答が得られなかった「やさしさ」「まじめさ」、特に人間の「やさしさ」の側面に注目して青年の自己受容を明らかにしようと考えた。

現代青年がやさしさをどのように解釈しているかを知るために、やさしさに関係していると思われる「まじめさ」「思いやり」「甘え」も含めて、短大女子学生47名に自由記述で、まず、個人の考えをまとめることを求め、4～7人のグループでディスカッションをした後、代表者に発表を求めた。その結果、やさしさに関して、相反する解釈のあることがわかった。即ち、やさしさを肯定的に捉え「人を思いやる心」「やさしさには種類があって厳しいやさしさもある」とするものと、「やさしさと思いやりは似ているが思いやりのほうが相手のためを思っている。やさしさは心で思わなくても行動、態度のみで示すこともできる」と答えたものがあった。他に「思いやりがあっちはじめてやさしさという感情につながる」、「全てやさしさに含まれる。相手の甘えやまじめな面を認めることもやさしさ」というものもあり、「見守りのやさしさ」「厳しいやさしさ」も含まれていた。やさしさと思いやりは似ているが、違いがあると考えている者も多いこと、さらには「やさしさ」という言葉の使い方も、必ずしもその意味が明確に把握された一貫性のあるものではないことも窺われた。

先の研究で、先行研究による自己受容の定義をみたが、改めて自己受容は「自己に対する許容(許し)と愛しさ」、自己に対するやさしさという意味を強めて再定義し、このやさしさによって自己の弱さも愛しく思い、「ありのままの自分の受け入れを自己受容とする」(高井、2000)自己受容が実現できるのではないかという方向から青年の自己受容を見直してみたい。沢崎の自己受容では、

菱 田 陽 子

他人に対する「やさしさ」を測っているが、本研究では、ありのままの自分の受け入れである自己受容は、自分を愛しく思う自分に対するやさしさと許しの気持を中心に実現していると考え、この視点に焦点を当てて自己受容をみていきたい。

目 的

本研究では、菱田ら(2002)の結果を踏まえ、諸特性の自己評価・他者評価との関連を含め、青年の自己受容を「やさしさ」の視点から解明しようとする。自己受容のしかたについては性差がある可能性があるため、以下の4点について、男女別に明らかにしたい。

- 1) 自己受容の因子構造を明らかにする。
- 2) 自己受容と、自己評価・他者評価の関連を明らかにする。
- 3) 自己受容と、これと関連すると仮定される諸特性との関連を明らかにする。
- 4) 青年の自己受容の特徴を、「やさしさ」の視点から明らかにする。

方 法

**調査対象**：国立大学学部学生112名、私立大学学部学生266名、私立短期大学生151名の計529名（平均年齢19.7歳）。男245名、女284名。回答に不備のあるものを除き、分析対象数は529名である

**調査時期**：2003年1・2月。

**質問紙の構成**：以下の各尺度、質問項目からなる質問紙を使用した。①自己受容尺度(沢崎1993、35項目。以下「沢崎尺度」)、②本研究のために作成した自己受容尺度(以下「菱田尺度」、22項目)、③本研究のために作成した自己受容と関連すると仮定される特性尺度(以下「特性尺度」、37項目)。④前回分析(菱田ら2002)を参考に作成した自己評価及び他者評価に関するもので、具体的内容は以下の各項目について、自分にあてはまるか否かを5件法で問うものである。末尾の( )で囲んだ記述は評価対象を示しており、質問項目には記載されていない。

(自己評価のための質問項目)

- ①私の積極性、協調性、明るさなどは、優れていると思う(社会性)
- ②私は優しい人間であると思う(やさしさ)
- ③私の外見は、魅力的であると思う(外見)
- ④私は、まじめな人間であると思う(まじめさ)
- ⑤私の家庭環境や人間関係、経済状態など、自分がおかれている状況に、不満がある(居場所)

(他者評価のための質問項目)

- ①あなたの積極性、協調性、明るさなどが優れていると思われる(社会性)
- ②あなたは優しい人間であると思われる(やさしさ)

現代青年の自己受容に関する分析（2）

- ③あなたの外見が、魅力的であるとみられている（外見）
- ④あなたは、まじめな人間であると思われている（まじめさ）
- ⑤あなたの家庭環境や人間関係、経済状態など、あなたが置かれている状況が、恵まれていると思われている（居場所）

**調査手続き：**質問紙を教室で一斉配布し、記入を求め、記入後その場で回収した。

結果と考察

1. 自己受容尺度の因子構造

自己受容の構造を明らかにするために、沢崎尺度と菱田尺度に対する回答について、男女別に因子分析(主因子法、バリマックス回転による軸の回転)を行った。その際、いずれの因子の因子負荷量も極端に低い項目（因子負荷量の絶対値が.300未満）を除いて分析した。以下の因子分析に於いても、同様の手続きによっている。

Table 1 自己受容尺度（沢崎）の因子構造（男性）

		I	II	III	IV	V	VI	h <sup>2</sup>
まじめなやさしさ	責任感	<b>.676</b>	.083	.198	.197	.243	-.042	.603
	まじめさ	<b>.607</b>	.243	.023	.070	.028	.147	.455
	やる気	<b>.581</b>	.164	<b>.303</b>	.114	.043	-.023	.472
	やさしさ	<b>.571</b>	.153	-.052	.231	.279	<b>.376</b>	.625
	積極性	<b>.506</b>	.222	<b>.409</b>	<b>.370</b>	.068	-.070	.619
	忍耐力	<b>.494</b>	.036	.136	.074	.014	.235	.325
	思いやり	<b>.493</b>	.083	-.010	.146	<b>.386</b>	.269	.493
	決断力	<b>.346</b>	.230	.279	.041	.209	-.024	.296
自分の状態	社会的地位（立場）	.132	<b>.791</b>	.112	.147	.192	.030	.715
	生き方	.262	<b>.602</b>	.239	.234	.171	.019	.573
	性的能力（魅力）	.211	<b>.557</b>	<b>.329</b>	.074	.073	-.030	.475
	経済状態	.081	<b>.526</b>	.076	-.053	.066	.064	.300
	現在の自分	.189	<b>.513</b>	.285	.143	.138	.154	.443
	顔立ち	.057	<b>.452</b>	<b>.437</b>	.041	.048	.157	.427
	知性（学力）	.144	<b>.394</b>	<b>.362</b>	.062	-.064	.156	.339
	職業（学生なども含む）	.064	<b>.372</b>	.068	.170	.107	.075	.193
外見	体力	.046	.153	<b>.734</b>	.136	.096	.238	.649
	運動能力	.121	.107	<b>.654</b>	.278	.083	.158	.563
	体つき	.148	<b>.303</b>	<b>.596</b>	-.070	.037	.180	.508
	指導力	<b>.300</b>	.143	<b>.428</b>	<b>.403</b>	.089	-.146	.485
	服装	.204	.265	<b>.427</b>	.202	.137	-.065	.358
	男または女としての自分	<b>.320</b>	.171	<b>.400</b>	.181	<b>.304</b>	.059	.420
明るさ	明るさ	<b>.349</b>	.117	.121	<b>.680</b>	.125	.182	.661
	人間関係	.071	<b>.380</b>	.182	<b>.545</b>	.223	.196	.568
	協調性	<b>.395</b>	.132	.286	<b>.513</b>	.132	.207	.579
きょうだい	きょうだいの一員としての自分	.293	.224	.143	.150	<b>.753</b>	.074	.751
	親に対する子どもとしての自分	<b>.373</b>	.221	.130	.047	<b>.481</b>	.223	.488
	住居	-.043	<b>.364</b>	.053	.172	<b>.415</b>	.133	.357
ゆとり	健康状態	.181	.213	<b>.378</b>	.006	.003	<b>.445</b>	.419
	のんきさ	.068	.055	.110	.081	.099	<b>.439</b>	.229
	情緒安定性	.290	.128	.183	.211	.200	<b>.380</b>	.363
Σ a <sup>2</sup>		3.457	3.281	3.195	1.880	1.689	1.248	14.750
%		11.2	10.6	10.3	6.1	5.4	4.0	47.6

(1) 沢崎尺度による自己受容因子構造

男女とも最終的に31項目を分析、以下の自己受容6因子を抽出した。

1) 男性の因子構造

Table 1によれば、第I因子は、責任感、忍耐力、やる気、積極性を示すと共に、協調性、明るさなど社会性のある思いやりを含む、まじめなやさしさによる実行力を示す因子であると考えられ、「まじめなやさしさ」因子とした。第II因子は、性的能力、顔立ち、知性、生き方など個人特性を含み、社会的地位、経済状態、職業、人間関係、住居など環境的状况からなる現在の自分を示す「現在の自分」因子とした。第III因子は、服装、体力、体つき、運動能力、顔立ち、など外見に関する「外見」因子であり、指導力、積極性、男または女としての自分など外見（そとみ）を気にする心理的側面を含む因子である。第IV因子は、明るさ、人間関係、協調性、積極性、指導力など社会性のある明るさを示すと考え、「社会的明るさ」因子とした。第V因子は、きょうだいの一員としての自分、親に対する子どもとしての自分など家族の中の自分に関する因子であるが、家族という社会のなかで最初に出会う社会的人間関係がきょうだいとも考えられる。この意味を含め、性を意識した、思いやりも加味した「きょうだい関係」因子とした。第VI因子は、健康でのんきさのある情緒安定性を含む「ゆとり」因子とした。男性のみに認められ、女性ではのんきさ、情緒安定はやさしさに含まれた。

Table 2 自己受容尺度（沢崎）の因子構造（女性）

		I	II	III	IV	V	VI	h <sup>2</sup>
社会性	積極性	.746	.127	.087	.097	.114	.195	.641
	明るさ	.637	.142	.140	.222	.107	.064	.510
	指導力	.624	.111	-.039	-.008	.198	.176	.473
	人間関係	.576	.088	.424	.180	.035	.025	.554
	協調性	.546	.033	.235	.376	.256	-.059	.565
	生き方	.454	.386	.324	.237	.090	.133	.542
	決断力	.419	.115	.153	.226	.130	.237	.336
	男または女としての自分	.362	.350	.220	.191	.293	-.024	.425
外見	顔立ち	.007	.734	.132	.099	.117	.038	.581
	性的能力（魅力）	.265	.599	.013	.132	.042	.082	.455
	体つき	.040	.570	.262	.055	.053	.116	.414
	現在の自分	.385	.473	.302	.200	.234	.094	.567
	服装	.282	.426	.225	.123	-.037	.172	.358
自分の状態	職業（学生なども含む）	.160	.128	.523	.061	.109	.112	.344
	経済状態	.055	.321	.451	-.070	-.013	.088	.322
	社会的地位（立場）	.233	.228	.450	.162	.019	.090	.343
	健康状態	-.047	.140	.422	.041	.184	.334	.347
	情緒安定性	.044	.059	.420	.333	.248	.080	.361
	きょうだいの一員としての自分	.343	.053	.379	.161	.240	.015	.348
	住居	.278	.111	.371	.094	-.008	.095	.245
	親に対する子どもとしての自分	.318	.094	.326	.042	.182	-.002	.251
	知性（学力）	.011	.263	.319	.184	.127	.232	.275
やさしさ	思いやり	.167	.132	.043	.740	.253	.131	.676
	やさしさ	.197	.173	.053	.710	.090	.050	.586
	のんきさ	.152	.074	.148	.324	.063	.072	.165
まじめさ	やる気	.303	.117	.114	.047	.664	.196	.600
	責任感	.272	.057	.011	.106	.655	.130	.535
	忍耐力	-.076	-.018	.292	.306	.534	.023	.471
	まじめさ	.177	.172	.095	.313	.456	-.017	.376
体力	体力	.173	.110	.159	.056	.221	.655	.548
	運動能力	.235	.143	.157	.135	-.025	.597	.476
Σ a <sup>2</sup>		3.555	2.390	2.376	2.062	2.019	1.288	13.689
%		11.5	7.7	7.7	6.7	6.5	4.2	44.2

現代青年の自己受容に関する分析（2）

2) 女性の因子構造

Table 2により、第I因子は、積極性、明るさ、指導力、人間関係、協調性、生き方、決断力等、社会との関わりの側面を示す「社会性」因子とした。男性の「社会的明るさ」には含まれない、生き方、決断力、家族の中の位置付けも含まれ、男性より範囲が広い。第II因子は、顔立ち、性的能力、体つき、服装など外見に関するもので男性の「外見」因子とは異なり、生き方、経済状態を含み、体力、運動能力は含まない「外見」因子とした。男性は体格、女性は性的魅力の特徴としている。第III因子は、職業、経済状態、社会的地位、人間関係、住居など環境状況と、健康状態（女性のみ）、情緒安定性（女性のみ）、生き方など個人特性を示す因子で、「自分の状態」因子と考えられる。男性にはない、きょうだいの一員としての自分、親に対するこどもとしての自分という家族に関する要因を含む。男性では、性的魅力、顔立ちなど身体的特徴が加わり、女性では、健康状態、情緒安定性など内面的側面が加わる。この性差に注目したい。第IV因子は、情緒が安定したおらかなのんきさ（女性のみ）と思いやりを含むやさしさ、忍耐力、まじめさ、協調性もあり他人にまじめに発するやさしさ、包まれるような感覚的情緒的なやさしさからなる「やさしさ」因子とする。男性については、社会性を意識した、冷静で理性的に考えて実行するやさしさであり、この性差に注目したい。第V因子は、やる気、責任感、忍耐力を含む、総体的「まじめさ」因子であると考え。男性では、まじめさはやさしさ因子に含まれたが、女性では、やさしさと分化して抽出された。第VI因子は、運動能力を含む「体力」因子である。男性では、運動能力は「外見」因子に含まれる。

(2) 菱田尺度による自己受容因子構造

菱田尺度については最終的に男16項目、女15項目を分析、この尺度については、「弱さ許容」、「自己いとしさ」の2因子構造を仮定したが、男女とも4因子を抽出した。

仮定因子構造については、性差を考慮にいれず、2因子構造を考えたが、分析により性差が明らかであると考えられたため、男性、女性に分けて因子分析を行った。

1) 男性の因子構造

Table 3 菱田尺度の因子構造（男性）

		I	II	III	IV	h <sup>2</sup>
弱 点 肯 定 ・ 大 切	自分の弱点も自分なので、大切だ。	.732	.078	.037	.359	.672
	私の弱点にも人間としての意味がある。	.673	.349	.130	.214	.637
	理想では、弱点がない人間でありたい。	-.573	.141	.095	.031	.358
	私の弱点も、良い面でもある。	.571	.372	.057	-.015	.468
	ほんの少しなら私に弱点があってもよい。	.383	.070	.110	.213	.209
	自分の弱さを、何とかしてなくしたい。	-.344	.049	-.071	.088	.133
	自分の弱点は、あまり気にならない。	.344	.063	.082	-.290	.213
い と 自 し 己 さ	苦労したりしている自分を、いたわりたい。	-.099	.633	-.075	.155	.440
	自分をほめてやりたいと思うことがある。	.149	.558	.137	.167	.380
	自分に優しい気持ちになることがある。	-.030	.476	.409	.109	.407
	自分の弱点も大切にしないとと言われる。	.114	.386	.110	.030	.175
い ま へ の わ り	生まれて来なかったほうが良かった。	-.069	-.081	-.654	.236	.495
	自分が生まれてきたことに感謝したい。	.190	.050	.635	.177	.473
	自分の身心をいたわる気持ちをもっている。	-.043	.367	.413	-.009	.307
理 弱 解 点	自分の弱さは人の弱さの理解に役立つ。	.089	.127	.054	.469	.247
	人は弱いものだと教えられた。	.014	.114	-.041	.411	.184
	Σ a <sup>2</sup>	2.123	1.558	1.264	0.854	5.799
	%	13.3	9.7	7.9	5.3	36.2

菱 田 陽 子

Table 3により、第I因子は、自分に弱点があってもいいし、更に、弱点には人間としての意味があるなど弱点肯定傾向を含み、自分の弱点もよいものとする「弱点肯定・大切」因子と考えた。女性と比較して弱点に関する項目が多く、大切だけではなく肯定も含まれている。先のやさしさとまじめさとの未分化と同様、女性に比較して分化していない傾向が認められ、弱点を肯定することと意味を認め大切に思うこととは同じ次元で受け止められていることを窺わせる。第II因子は、苦勞している自分にいたわりを感じ、自分をほめたくなる気持や自分に対するやさしさ、心身をいたわる愛しさ傾向と、自分の弱点にも意味があると考え等、自己への愛しさのメタ的認知を含む因子で、「自己愛しさ」因子である。第III因子は、生まれてきたことを肯定し、自分自身の命に対するいたわり、やさしさと感謝を示す因子で、「生へのいたわり」因子であると考えられる。第IV因子は、自分の弱点も自分に含まれる大切なものとして受けいれるとともに、人は弱いものと教えられ、自分の弱さは人の弱さ理解に役立つと考えているなど、人の弱さへの理解を示す「弱点理解」因子である。

Table 4 菱田尺度の因子構造 (女性)

		I	II	III	IV	h <sup>2</sup>
いと 自 己 さ	自分をほめてやりたいと思うことがある。	.803	.140	.074	.080	.676
	自分に優しい気持ちになることがある。	.669	.208	.052	.087	.501
	苦勞したりしている自分を、いたわりたい。	.525	.169	-.023	.110	.317
	自分の身心をいたわる気持ちをもっている。	.341	.106	.053	.270	.203
弱 点 大 切	私の弱点にも人間としての意味がある。	.246	.632	.225	.148	.532
	自分の弱点も自分なので、大切だ。	.142	.545	.348	.243	.497
	私の弱点も、良い面でもある。	.270	.499	.207	.204	.406
	人は弱いものだと教えられた。	.006	.426	-.043	-.071	.188
	自分の弱さは人の弱さの理解に役立つ。	.169	.423	.052	.009	.210
自分の弱点も大切にしなさいと言われる。	.115	.342	-.043	.125	.148	
肯 弱 定 点	理想では、弱点がない人間でありたい。	.069	-.059	-.749	-.026	.570
	自分の弱さを、何とかしてなくしたい。	-.072	-.006	-.589	-.089	.360
い 生 た わ り の	ほんの少しなら私に弱点があってもよい。	.182	.323	.454	.308	.438
	生まれて来なかったほうが良かった。	-.126	.016	-.102	-.786	.644
	自分が生まれてきたことに感謝したい。	.216	.339	.185	.519	.465
Σ a <sup>2</sup>		1.785	1.749	1.391	1.233	6.158
%		11.9	11.7	9.3	8.2	41.1

2) 女性の因子構造

Table 4によれば、第I因子は、苦勞している自分にいたわりを感じ、自分をほめてやりたくなる気持や自分に対するやさしさ、心身をいたわる愛しさ傾向の因子で、「自己愛しさ」因子と考えられる。男性のような愛しさのメタ的認知は含まれない。第II因子は、自分の弱点は人間として意味のある自分に含まれている大切なものと考え、そんな弱点のある自分が生まれてきたことに感謝して自分を受け入れている、さらに、人は弱いものであり、その弱点は大切と教えられていて、自分の弱さは人の弱さの理解に役立つと考えているメタ的な自他の弱さ理解を含む因子で、「弱点大切」因子である。男性は「弱点大切」と「弱点理解」は別因子であった。第III因子は、弱点のない人間を理想とはせず、自分に弱点があってもいいし、弱点をなくしたいとは思わない、自分の弱点は自分に含まれた大切なものであるとする「弱点肯定」因子である。男性には、この因子はない。第IV因子は、弱点があっても生まれてきたことを感謝し肯定する、生に対してやさ

現代青年の自己受容に関する分析（2）

しさのあるいたわり因子で、「生へのいたわり」因子であると考えられる。男性のような心身へのいたわりは含まない。

このように尺度作成時に仮定した因子構造を確認することは必ずしもできなかったが、男性の「弱点肯定・大切」、「生へのいたわり」、「弱点理解」因子は、仮定の「弱さ許容」因子、また、女性の「弱点大切」、「弱点肯定」、「生へのいたわり」因子も同様に考えられることから、因子構造は異なるが仮定とほぼ同じ内容のものであると考えられる。

また、弱さの受け入れは、自己に対する甘さとも考えられ、自己に対する厳しさとのバランスのあり方が課題であると思われる。この点に関しては、自己受容に関連する仮定諸特性として「厳しい思いやり」、「依存性、依頼心を含む甘え」、「葛藤経験の受け入れ」を考え、自己受容因子との相関をみることにより、弱さの受け入れと自己に対する厳しさの関係を見ようと考えた。因子分析の結果関連諸特性は仮定したものと相違はあったが意図した因子が抽出された。このことにより、弱さの受け入れと甘え・厳しさの関係についても見る事ができたと考えている。結果の詳細は後に述べるが、弱さの受け入れは、自己への甘さに片寄るものではなく、それなりに自己への厳しさを加味しながらなされていると思われる。トータル的な自己受容として弱さの受容を加味した因子構造を仮定したが、分析の結果、男性は「弱点肯定・大切」、「自己への愛しさ」、「生へのいたわり」、「弱点理解」因子、女性は「自己への愛しさ」、「弱点大切」、「弱点肯定」、「生へのいたわり」因子が抽出された。これらの因子は、全て、自己に対するやさしさを意味する因子と考えられる。「やさしさ」因子は他人に対するやさしさであり、自己に対するやさしさは今後続けて検討したい。

2. 自己受容と自己評価・他者評価の関係

菱田ら（2002）による沢崎尺度の分析により抽出された5因子（「居場所」、「社会性」、「外見」、「やさしさ」、「まじめさ」）に対する自己評価・他者評価（自分が思っている他人の評価）と、ここでの自己受容因子との相関によって、自己評価・他者評価が与える影響を明らかにしようと考えた（Table 5）。

Table 5 自己評価、他者評価と自己受容間の相関

		自己評価					他者評価					
		居場所	社会性	外見	やさしさ	まじめさ	居場所	社会性	外見	やさしさ	まじめさ	
男性	沢崎尺度	まじめなやさしさ	-.072	.273 **	.013	<b>.463</b> **	<b>.374</b> **	.073	.244 **	.102	<b>.358</b> **	.295 **
		現在の自分	.251 **	.096	.257 **	.098	.233 **	.242 **	.179 **	.253 **	.139 **	.168 **
		外見	.098	<b>.303</b> **	.238 **	.046	.039	.063	.191 **	<b>.379</b> **	-.015	.101
		社会的明るさ	.196 **	<b>.387</b> **	-.019	.195 **	-.104	.096	<b>.401</b> **	.092	.217 **	-.106
		きょうだい関係 ゆとり	.212 **	.052	.155 *	.125	.057	.279 **	.188 **	-.003	.185 **	.048
	菱田尺度	弱点大切	.266 **	.222 **	.172 **	.170 **	.192 **	.165 **	.275 **	.104	.294 **	.265 **
		自己愛しさ	.122	.271 **	.219 **	<b>.413</b> **	.240 **	.064	.200 **	<b>.338</b> **	<b>.383</b> **	.186 **
		生へのいたわり	.248 **	<b>.308</b> **	.071	.274 **	.107	.191 **	.286 **	.138 *	.235 **	.232 **
		弱さ理解	-.051	.149 *	-.061	.039	.047	-.127 *	.063	-.030	.117	.026
		社会性	.289 **	<b>.564</b> **	.222 **	.168 **	-.049	.190 **	<b>.578</b> **	.216 **	.112	-.115
女性	沢崎尺度	外見	.241 **	.158 **	<b>.478</b> **	.115	.018	.177 **	.177 **	<b>.339</b> **	.217 **	.008
		自分の状態	<b>.476</b> **	.111	.100	.012	-.016	.248 **	.060	.046	.003	-.025
		やさしさ	.056	.200 **	.183 **	<b>.521</b> **	.051	.083	.190 **	.128 *	<b>.403</b> **	.050
		まじめさ	.048	.228 **	.152 *	<b>.314</b> **	<b>.430</b> **	.087	.220 **	.189 **	.256 **	<b>.366</b> **
		体力	.112	.197 **	.009	.115	.049	.158 **	.136 *	.078	-.012	.005
	菱田尺度	自己愛しさ	.137 *	<b>.345</b> **	.274 **	.282 **	.082	.136 *	.269 **	.225 **	.230 **	.090
		弱点大切	.156 **	<b>.316</b> **	.252 **	<b>.315</b> **	.202 **	.251 **	<b>.335</b> **	.169 **	.289 **	.134 *
		弱点肯定	.100	.087	.138 *	.061	.027	.080	.069	.052	.003	-.003
		生へのいたわり	<b>.451</b> **	<b>.312</b> **	.230 **	.152 *	-.045	.199 **	.259 **	.133 *	.109	-.030

菱 田 陽 子

自己評価・他者評価が高ければ自己肯定度が高まり、自己受容をより容易にさせると推測された。更に青年期においては、他者からの評価が自己評価より重要な意味をもつことも推測されたが、分析結果では、その相違は明らかではなく、むしろ、自己評価のほうが、他者評価より、自己受容に影響があることが窺えた。

(1) 沢崎尺度について

1) 男性

「まじめなやさしさ」の受容は、「やさしさ」、「まじめさ」、「社会性」の自己及び他者評価と関連している。相対的には、他者評価よりも自己評価との関連がより強い傾向がある。「ゆとり」受容が「やさしさ」評価(自己・他者)と相関し、自らをやさしいと思っている者ほど自らのゆとり(ゆったり感)を受容している。

2) 女性

自己受容因子にそれぞれ該当する特性の、自己・他者評価との間に、特に高い相関が認められた(自分が優れていると認識している特性を受容している)。「社会性」では差は認められないが、「外見」、「居場所」、「やさしさ」、「まじめさ」については、他者評価よりも自己評価との間の関係性が高い傾向が認められる。その特性を自分がどのように受け止めるかが、受容にとってより重要な意味を持つことが示唆された。

(2) 菱田尺度について

1) 男性

「弱点大切・肯定」の受容は相関値は高くないものの自己評価の全てと他者評価の「外見」以外の項目と関連がある。自分の評価や他人から評価されているという思いは自分の弱点を受け入れやすくすると考えられる。

「自己愛しさ」の受容は自己評価の「居場所」以外と他者評価の「外見」以外全ての評価項目と関連している。特に、自己評価の「やさしさ」と他者評価の「外見」、「やさしさ」との関連が高く、「やさしさ」評価では他者評価よりは自己評価との関連性が高い傾向がある。他人に自分のやさしさがどう思われているかという思いより自分で自分は優しいと思っているほど自分を愛しく思える傾向を示している。又、他人に自分の外見が評価されていると思うほど自分に優しくなれる傾向も示唆している。

「生へのいたわり」の受容は、自己評価の「外見」、「まじめさ」以外の評価と高い相関ではないものの他者評価の全てと関連している。特に自己評価の「社会性」と関連が高い。自分の積極性・協調性・明るさなどの社会性があると思っているほど自分は生まれてきてよかったと思っていることを示している。

「弱点理解」の受容は学習による人間の弱さに対する理解を示すが、自己評価・他者評価のいずれの項目とも関係がない。わずかに、自己評価の「社会性」、他者評価の「居場所」と5%レベルで相関が認められる。人は弱い者だと理解することを受け入れることと自己・他者評価は関係がないことを示している。



## 2) 女性

「自己愛しさ」の受容は自己評価・他者評価の「まじめさ」以外の項目と関連がある。特に自己評価の「社会性」と関連性が高い。自分の積極性・協調性・明るさなどの社会性があると思っ  
ているほど自分を愛しく思う傾向を示している。男性は「やさしさ」の自己評価と関連している  
が女性は「社会性」の自己評価と関連している。男性は自分のやさしさの評価が自己を愛しく思  
い自己を受け入れることを支え、女性は自分の積極性・協調性・明るさの評価が自己を愛しく思  
い自己を受け入れることを支える傾向を示している。

「弱点大切」の受容は自己評価・他者評価の全ての項目と関連している。特に自己評価・他者  
評価の「社会性」、自己評価の「やさしさ」との関連性が高い。男性では弱点大切と弱点肯定は  
分化しなかったが女性では分化した。女性では弱点を大切に思うことと自己評価・他者評価項目  
はほとんど関連するのに、弱点はそのままよいという弱点肯定と自己評価・他者評価はほとん  
ど関連がない。わずかに、自己評価の「外見」と5%レベルで有意な相関が認められる程度であ  
る。自己評価・他者評価が高ければ自分の弱さを大切に思う気持ちを受け入れ易いが、自分の弱  
さはそのままよいという肯定する気持とは関係がないことを示唆している。

「生へのいたわり」の受容は、自己評価の「まじめさ」、他者評価の「やさしさ」、「まじめさ」  
以外の評価項目と関連がある。特に自己評価の「居場所」、「社会性」との関連性が高い。「居場  
所」、「社会性」の評価に関しては他者評価よりも自己評価との関連性が高い傾向がある。男女と  
も自分は生まれてきてよかったという生へのいたわり感は自己評価・他者評価の「居場所」、「社  
会性」と関連がある。男性は更に自己評価の「やさしさ」、他者評価の「やさしさ」、「まじめさ」  
との関連があるが、女性では自己評価の「やさしさ」とわずかに相関が見られる程度である。男  
女ともに家庭環境、人間関係、経済状態など居場所や積極性、協調性、明るさなどの社会性の自  
己評価・他者評価が高ければ自分は生まれてきてよかったという生へのいたわりを受容しやすい  
傾向がある。

以上のように、菱田尺度による自己受容傾向と、特性についての自己評価及び他者評価との間  
の関連がある程度明らかになったが、全体を通して、各菱田因子が多く自己評価或いは他者評  
価と相関すること、菱田尺度因子の違いによる相関傾向の相違が必ずしも明らかでないことも、  
認められる。このことは、菱田尺度各因子の特徴があまり明らかにならない、これらの因子の特  
徴を明らかに出来ないことのように見える。この原因としては、以下のことが考えられよう。

第1に、先の沢崎尺度による自己受容傾向をもとに5側面を考え、それに対する評価を考えて  
いるが、これはいわば自己受容の側面、自己受容を考える対象であると考えられるが、それに対  
して、菱田尺度はいわば自己受容の過程（受容の仕方、姿）を示したものだと考えられる。これ  
までの研究の中でも、自己受容の過程としては、自分に対する自信、自己肯定感等とともに、自  
尊感情なども考えられてきており、ここでの菱田尺度も、沢崎尺度のような自己受容の対象で  
はなく自己受容過程を扱ったものである。この視点からすれば、沢崎尺度と菱田尺度は、いわば自  
己受容の縦糸と横糸の関係であり、そのように考えれば、それぞれの菱田因子が多く評価と相

菱 田 陽 子

関していることは理解できるであろう。

第2に、ここでの菱田尺度は、自己受容過程の中の特に自己へのやさしさの側面を扱っていると考えられる。即ち、自己受容過程の一部を取り扱っており、その意味ではかなり類似した内容である可能性が大きい。因子分析によってお互いに独立した4因子が確認されたが、それはここで扱った限定された過程についての因子分析であり、ここで扱われた特性に対する評価とは同じように相関する可能性があることから、因子毎にあまり相違しない関係が認められたことが、理解できるだろう。

このように、ここで扱った菱田因子は、自分に対するやさしさの視点からの自己受容過程であるとともに、これらは自己受容過程の一部であり、多くの自己評価並びに他者評価と関連していると思われる。これらの2点については、今後更に詳細に考えてみたい。

### 3. 特性尺度の因子構造

やさしさを中心とした自己受容を支えると考えられる諸特性について最終的に男35項目、女34項目を因子分析し、男女とも6因子を見いだした。この尺度については、「メタ認知的因子」、「依存性・依頼心・甘えに関する因子」、「厳しい思いやり因子」、「葛藤経験やその受け入れ姿勢に関する因子」、「自己愛・自己満足因子」の5因子を仮定したが、実際には6因子構造となった（男性は「非自立」、「メタ理解」、「内省的葛藤」、「厳しさ効果」、「依存的承認欲求」、「非厳しさ体験」、女性は「楽天的自信」、「非自立」、「厳しさ効果」、「依存性」、「内省的葛藤経験」、「承認欲求」）。

事前に仮定した自己受容を実現させる因子としては、自己を客観的に冷静にかつ多様に見ることを可能にする「メタ認知的因子」、一方的な依頼心や甘えではない、正常な依存性等「依存性・依頼心・甘えに関する因子」、更に他者からの厳しさのある思いやりもあることを理解し、それを日常生活で体験していることに関連する「厳しい思いやり因子」であり、加えて苦しみ悩む経験を含めて自己の成長や成熟性に導かれる葛藤経験は自我を強め、自己受容への安定した深い取り組み姿勢が形成され、自己受容の実現にプラスの要因となるであろうと考え「葛藤経験やその受け入れ姿勢に関する因子」、そのあと自己愛傾向・自己満足傾向は一面的には自己受容を実現させると考えられ、自己有能感などは自分の一方的な思いこみによる場合もあると考えられ、必ずしも自己受容を容易にしないものの自己受容との関わりは深いと考え、「自己愛・自己満足因子」を想定した。

得られた6因子構造をみると、因子数や因子内容に多少のずれはあるものの仮定した因子構造との類似性が認められた。

#### 1) 男性の因子構造

Table 6によれば、第I因子は、依頼心、甘えがあり、冷静さに欠け、感情的になりやすい。自分に対する他人からの厳しい注意を嫌い、友人が間違っているとしてもその指摘はできない。困ったときも適切な援助を求めることもできない、信頼できる人の支持で生きようとする幼稚で未成熟な自立していない傾向を示す因子であり、「非自立」因子であると考えられる。人気者になりたいと思う幼児性も含む。第II因子は、問題解決能力をもち、意見を明確に述べることができる自立性を

現代青年の自己受容に関する分析（2）

示し、自分のがんばりだけではなく、頼れる人に適切に援助を求めることができると、メタ的に考え理解している成熟傾向を示す「メタ理解」因子であると考え。

第Ⅲ因子は、自分について悩んだり考えたりする傾向をもち、カッとなるのはどんなときかわかるが感情に溺れやすい自分であるなどイメージの定まりにくい不安定な自分を見つめると同時に、相手の意見を尊重することは大切であるとする理性面も含んだ内省傾向を示す。この内省傾向によって苦勞した葛藤経験の自分への影響を考える姿勢を示す因子で、「内省的葛藤経験」因子とする。第Ⅳ因子は、病人の面倒をみた大変さなど苦勞の経験を持ち、病気などに対する不安は感ずるものの厳しさは成長につながると考える厳しさとその効果を肯定する、「厳しさ効果」因子と呼ぶことにする。

第Ⅴ因子は、自分の力のみではなく、頼れる人に頼り、助けを求めつつ、人々の注目を集め、人気者になりたいとする依存傾向のある承認欲求を意味する「依存的承認欲求」因子であると考え。第Ⅵ因子は、自分の人生に苦勞らしい苦勞を感じず、時間を守って行動するなどの几帳面さもなく、時には甘えも円滑な人間関係には必要と考えるなど、厳しさを体験していないことを示す「非厳しさ体験」因子と考える。

Table 6 諸特性尺度の因子構造（男性）

		I	II	III	IV	V	VI	h <sup>2</sup>
非自立	出来ることも、誰かにやって欲しい。	.615	.164	-.027	-.014	.115	.081	.426
	何をすることも不安で、人にやって欲しい。	.531	-.196	-.047	.016	.228	.205	.417
	自分のことをと言っても、厳しく注意されるのは嫌だ。	.523	.097	-.125	-.115	.048	-.009	.314
	間違った行動をとる友だちにきちんと注意できない。	.486	-.368	-.159	-.063	.011	-.016	.401
	私は、感情におぼれやすい。	.400	-.064	.306	.082	.185	-.264	.368
	ちょっとしたことで、冷静さを失ってしまう。	.396	-.182	.152	.032	-.030	.080	.221
	信頼できる人の指示で生きていく。	.337	-.112	-.072	.107	.143	-.161	.189
	慌てたり不安になったりする自分を、こっけいに思う。	.332	-.076	.206	.175	-.156	.156	.238
メタ理解	いざこざを解決する方法はたいてい分かる。	.034	.630	.030	.033	-.045	-.084	.409
	自分の意見をはっきり言う。	-.154	.477	.107	.190	.079	.124	.320
	どう振舞えば物事がうまくいくか、分からない。	.375	-.474	.089	.043	.078	.238	.438
	いざという時、頼れる人がいる。	-.184	.407	.103	.134	.325	.099	.343
	周りの人々は、私の才能を認めてくれる。	-.095	.398	.031	.221	.075	.211	.267
	適切な人に助けを求めることができる。	-.154	.375	.153	.122	.268	.005	.274
	周りの人達より有能な人間である。	.062	.352	-.023	-.076	.188	-.078	.176
	自分の思いを分かりやすく表現する努力をしている。	-.001	.311	.157	.272	.201	-.038	.237
すぐに助けずに見守る姿勢も大切である。	.142	.284	.144	.262	-.173	.095	.229	
内省的葛藤	自分のことで、深く考えたりひどく悩んだ経験がある。	.117	-.163	.644	.105	.135	-.050	.487
	苦勞した経験が私に影響を与えている。	-.150	.184	.572	.206	.074	-.025	.432
	自分の考えや気持ちについて考える。	.032	.167	.521	.049	-.037	-.019	.304
	相手の意見として認めることは大切。	-.142	.053	.449	.246	.035	.175	.317
	どんな時にカッとなるか、自分でもよく分かっている。	-.075	.125	.447	.041	.086	-.054	.233
自分のイメージが定まらないことがあった。	.214	-.294	.444	.161	.077	.171	.390	
厳しさ効果	助けてくれなかったことが自分のためになった。	.018	.132	.035	.721	.047	-.024	.542
	厳しい注意が、あとで私を成長させた。	-.159	.084	.137	.690	.147	-.020	.549
	病人等の面倒をみる大変さを経験している。	.040	.024	.154	.340	-.054	-.027	.145
	自分の病気などを想像すると不安になる。	.169	.023	.118	.299	.134	-.024	.151
依存的承認欲求	みんなの注目を集めてみたい。	.246	.044	.081	.092	.630	-.112	.487
	みんなの人気者になりたい。	.364	.053	.045	.197	.579	-.094	.520
	信頼している人に頼りたいと思うことがある。	.093	.085	.131	-.017	.482	.127	.282
	困っている時も助けを求めることができない。	.315	-.215	.023	.011	-.351	-.135	.288
非厳しさ	私の人生の中に苦勞らしい苦勞はなかった。	.073	.048	-.177	-.173	-.108	.502	.333
	求められるままには助けられない方が良い時がある。	.048	.060	.352	.062	.031	.398	.293
	時間を正確に読んで行動するほうである。	-.017	.191	.021	.014	-.024	-.377	.180
	時には甘えたほうが、人間関係はうまくいくと思う。	.029	.188	.162	.088	.170	.321	.202
Σa <sup>2</sup>	2.441	2.235	2.187	1.771	1.665	1.105	11.404	
%	7.0	6.4	6.2	5.1	4.8	3.2	32.6	

2) 女性の因子構造

Table 7によれば、第I因子は、自分の意志を持ち、自分の意見を述べたり、友人に注意すること躊躇はなく、周囲を気にせず好きに振る舞う傾向をもつ。同時に有能感に裏打ちされており、人に適切な援助を求めながら苦勞のない人生を送る内容の因子で、「楽天的自信」因子と考えられる。男性の「メタ理解」因子にある成熟の要素は認められない。第II因子は、男性の「非自立」因子にみられた、友達のまちがいを指摘できない、自分の慌て振りを滑稽に思う、人気者になりたい等の社会的要素はみられないが、構造は類似していることから「非自立」因子と考える。不安感の要素は女性のみである。

第III因子は、病人の面倒をみたなど苦勞の経験を持ち、自分に対する厳しい注意や助けってもらえなかった辛さも含めて、厳しさが成長につながるという、厳しさの肯定と効果を示す因子で、「厳しさ効果」因子と考える。男性と違い、問題解決ができる傾向も含まれている。第IV因子は、時には甘えも円滑な人間関係には必要と考え、自分の才能は認められていると思ひ、信頼できる頼れる人もいるという安心した自信感のもとに、人に頼りたいと思う健全な依存性傾向を示す「依存性」因子である。甘えは、男性では「非厳しさ経験」に含まれ、女性ではこの健全な「依存性」に含まれる。女性では相手の意見を認める大切さや自分の意見を分かりやすく表現する円滑なコミュニケーション能力も依存性に含まれている。男性に比べ甘えの社会的意味合いがより強いと思われる。

Table 7 諸特性尺度の因子構造 (女性)

	I	II	III	IV	V	VI	h <sup>2</sup>	
楽天的自信	自分の意見をはっきり言う。	.645	-.144	.213	.302	.215	.179	.652
	適切な人に助けを求めることができる。	.518	.246	.064	.276	-.062	.004	.413
	困っている時も助けを求めることができない。	-.447	-.042	.007	-.179	.030	-.011	.235
	間違った行動をとる友だちにきちんと注意できない。	-.436	.233	-.206	-.027	-.040	.001	.289
	いつも周りを気にせず好きに振る舞う。	.354	.054	.045	-.058	.003	.029	.134
	周りの人達より有能な人間である。	.326	-.134	.095	.167	-.142	.113	.194
	私の人生の中に苦勞らしい苦勞はなかった。	.283	.024	-.273	.016	-.175	-.083	.193
非自立	何をすることも不安で、人にやって欲しい。	-.243	.577	-.210	-.157	.051	-.064	.467
	私は、感情におぼれやすい。	.096	.539	.134	-.062	.178	.249	.415
	ちょっとしたことで、冷静さを失ってしまう。	.069	.509	.069	-.243	.395	.143	.504
	どう振舞えば物事がうまくいくか、分からない。	-.398	.427	-.224	-.072	.213	-.128	.458
	出来ることも、誰かにやって欲しい。	.083	.393	-.151	.090	.012	.108	.204
	信頼できる人の指示で生きていく。	-.104	.393	.005	.189	-.051	-.052	.206
	自分の病氣などを想像すると不安になる。	.050	.294	.080	.082	-.004	.088	.110
厳しさ効果	病人等の面倒をみる大変さを経験している。	.121	.065	.533	-.175	-.085	.133	.358
	苦勞した経験が私に影響を与えている。	.089	.016	.493	.100	.282	.045	.343
	厳しい注意が、あとで私を成長させた。	.167	-.018	.472	.317	.179	-.081	.390
	助けてくれなかったことが自分のためになった。	.082	.064	.408	.212	.076	-.034	.229
	自分のことをと云っても、厳しく注意されるのは嫌だ。	-.001	.225	-.399	-.086	.034	.102	.229
	いざこざを解決する方法はたいてい分かる。	.223	-.050	.297	.070	-.009	.186	.180
	時には甘えたほうが、人間関係はうまくいくと思う。	.074	.143	-.069	.527	.042	.200	.350
依存性	信頼している人に頼りたいと思うことがある。	.052	.373	.140	.513	.049	.063	.431
	周りの人々は、私の才能を認めてくれる。	.214	-.131	.148	.437	-.027	.114	.290
	いざという時、頼れる人がいる。	.354	.142	.360	.434	-.123	.181	.511
	自分の思いを分かりやすく表現する努力をしている。	.266	-.001	.223	.328	.011	.166	.256
	相手の意見として認めることは大切。	.158	-.114	.235	.278	.207	.141	.233
	自分のイメージが定まらないことがあった。	-.247	.197	.004	.095	.566	-.055	.432
	自分のことで、深く考えたりひどく悩んだ経験がある。	-.222	.169	.273	.031	.523	.109	.439
内省的寫真	求められるままには助けられない方がよい時がある。	.062	-.125	.015	-.026	.415	.041	.194
	慌てたり不安になったりする自分を、こっけいに思う。	-.059	.156	-.043	-.036	.401	.040	.193
	すぐに助けずに見守る姿勢も大切である。	.087	-.074	.119	.227	.304	-.064	.175
	みんなの注目を集めてみたい。	.054	.158	.005	.101	.083	.749	.606
	みんなの人気者になりたい。	.045	.132	.009	.272	.001	.711	.599
	自分の考えや気持ちについて考える。	.228	.084	.176	.069	.347	.367	.350
	Σa <sup>2</sup>	2.202	2.053	1.890	1.831	1.677	1.611	11.264
%	6.5	6.0	5.6	5.4	4.9	4.7	33.1	

第V因子は、男性の「内省的葛藤経験」因子と同様に自分のことで考え悩んだ経験をもつ「内省的葛藤経験」因子であると思われる。男性と異なり、慌てたり不安になる自分を滑稽に思うなどやメタ認知的傾向も示し、有効な支援について見守りの必要があると考えるなどの他者に対する思慮のある思いやり傾向も含む因子。男性には他者に対する思いやりは含まれず、自分についての内省と相手の意見の尊重などの理性的思慮が含まれる。第VI因子は、自分の中の承認欲求を見つめその気持ちに沿って、注目を集め、人気者になりたいと思う単純な承認欲求を示す「承認欲求」因子であるとする。男性のような他者への依存傾向は含まれない。

#### 4. 自己受容の特徴

自己受容傾向と自己受容に関係すると思われる諸特性との関係を見ることにより青年のやさしさを中心とした自己受容傾向の特徴を明らかにしようと考えた。そのために、沢崎尺度並びに菱田尺度による各自己受容因子と諸特性との相関を求めた（Table 8、9）。

Table 8 自己受容との相関（男性）

	非自立	メタ理解	内省的葛藤経験	厳しさ効果	依存的承認欲求	非厳しさ体験
まじめなやさしさ受容	-.160 *	.214 **	.163 *	.256 **	.167 *	-.281 **
現在の自分受容	-.164 *	.143 *	.069	.044	-.040	.153 *
外見受容	-.018	.256 **	.053	.012	.110	-.159 *
社会的明るさ受容	-.058	.298 **	.129	.186 **	.261 **	.114
きょうだい関係受容	-.188 **	.272 **	.123	-.011	.035	.036
ゆとり受容	-.089	-.102	-.072	-.086	.127	.075
弱点肯定・大切	-.299 **	.234 **	.141 *	.141 *	-.030	.089
自己への愛しさ	.145 *	.194 **	.015	.319 **	.327 **	-.005
生へのいたわり	-.205 **	.202 **	-.030	.074	.204 **	-.086
弱点理解	.073	.027	.305 **	.280 **	.166 *	.015

\*\* p<.01, \* p<.05

Table 9 自己受容との相関（女性）

	楽天的自信	非自立	厳しさ効果	依存性	内省的葛藤経験	承認欲求
社会性受容	.589 **	-.068	.318 **	.240 **	-.005	.224 **
外見受容	.246 **	-.086	.059	.032	-.119 *	.017
自分の状態受容	.125 *	-.174 **	-.069	.190 **	-.280 **	-.076
やさしさ受容	.099	-.037	.177 **	.100	-.084	-.089
まじめさ受容	.039	-.114	.183 **	.264 **	-.085	.024
体力受容	.131 *	-.059	.110	.107	.052	.094
自己への愛しさ	.308 **	.202 **	.130 *	.227 **	.058	.178 **
弱点大切	.239 **	.093	.364 **	.346 **	.152 *	.129 *
弱点肯定	.170 **	-.168 **	-.016	.166 **	-.101	-.062
生へのいたわり	.341 **	-.190 **	.116	.161 **	-.208 **	.043

\*\* p<.01, \* p<.05

##### 1) メタ認知的側面

男性の成熟性のある「メタ理解」特性項目と女性の成熟性に欠ける「楽天的自信」特性には共通した項目が含まれているのでこれを「メタ認知的側面」を意味する因子と考える。ただし、男性にはより成熟したメタ認知傾向が認められ、女性は周囲を気にしない自信傾向と人生の苦勞を感じていない楽観傾向がみられる。このように男女によって自己受容の性格に若干の相違が認め

## 菱 田 陽 子

られるものの、男女とも自己受容の多くの側面がこれらメタ認知的特性と関連していることから、「メタ認知的側面」が、自己受容に関わることをひとつの特徴としてあげることができる。これによりメタ的に認知する側面をもつことは自己受容を支えることが示唆された。

男女の相違点として、男性ではあまり高い相関値が認められないが、女性では「社会性」受容、「生へのいたわり」、「自己への愛しさ」等とかなり高い相関を示している。この因子はまた、社会性（男性で社会的明るさ、女性で社会性）の受容との特に高い相関が注目される。又、男性では沢崎の「ゆとり」受容、菱田の「弱点理解」とは相関せず、女性では沢崎の「やさしさ」、「まじめさ」受容と相関していない。女性が沢崎の「やさしさ」、「まじめさ」受容と相関していないのは、女性は自分の他人に対するやさしさ、まじめさを、考えて発揮するのではなく、母性愛のように感ずることで発揮することも考えられる。

## 2) 社会性の受容

女性の「社会性」受容項目は、男性の「社会的明るさ」項目のほかに、「生き方」、「決断力」、「現在の自分」、「家族の中の位置関係」なども含んでいる。しかしこれらを考慮しても男女とも社会性に関するものであると考えられる。これらと諸特性との相関をみると、メタ理解的特徴を有すること（メタ理解（男）、楽天的自信（女））、厳しさの大切さを認識すること、承認欲求との間に有意な相関が認められるという共通性がある。相関値そのものは女性の方が高い傾向にあり、女性のみ依存性との相関も認められる。男女ともに、メタ認知的側面の関連が認められるものの、依存性の関与も窺わせ、依存性は女性により顕著に認められる。健全な依存性は女性のみ特性とも推測される。この「依存性」特性は多くの自己受容因子と相関しており女性の特徴として注目したい。

## 3) やさしさ、まじめさの受容

本研究の中心的テーマに関わるものである。男性では「やさしさ」受容と「まじめさ」受容は分化せず、女性では分化している。男性の「まじめなやさしさ」受容はここで取り上げた全ての特性と低い相関を示している。このことから、男性の「やさしさ」受容の未分化、或いは、構造の複雑さを窺わせる。

女性は、やさしさの受容もまじめさの受容も、すべてと相関するというのではなく、「厳しさ効果」特性と相関し、更に他者に依存する傾向が、やさしさ受容ではなくまじめさ受容に関連していることが注目される。

沢崎の「やさしさ」、「まじめさ」受容は、他者に対する「やさしさ」、「まじめさ」を意味しており、菱田の4受容因子は全て、自分に対するやさしさを意味している。女性の場合、沢崎の他人に対する「やさしさ」、「まじめさ」受容には、ときには厳しい体験も自分にとって大切とする「厳しさ効果」も関連している。また、女性の他者への健全な依存傾向が沢崎の「やさしさ受容」ではなく、「まじめさ」受容に関連している点に注目したい。必要な時には人に依存してもいいと考える健全な依存性はやさしさの受容とは関係がなく、まじめさの受容と関連がある。このことは健全な依存性は甘えに由来するのではなく、まじめさに由来していると考えてもよいのでは

ないだろうか。

更に、女性では菱田尺度の自分に対するやさしさの4受容因子は全て、メタ認知的側面を意味する「楽天的自信」特性と、健全な依存性を意味する「依存性」特性と相関している。なかでも「自己への愛しさ」受容、「生へのいたわり」受容と「楽天的自信」特性の相関、「弱点大切」受容と「依存性」特性の相関がそれなりに認められる。自分に対する「やさしさ」受容はメタ的な特性と健全な依存性に由来するものと考えられる。この点に更に注目していきたい。

男性の他人に対する「まじめなやさしさ」は、「依存性」特性ではなく、「自立性」特性と関わり、女性の他人に対する「やさしさ」受容は、自分の厳しい体験とのみ関わっている。男性は自立性の発達にともない「まじめなやさしさ」を獲得し、女性は自分の厳しい体験によって、他人に対するやさしさを身につける傾向にあるといえるのかもしれない。

### 全体的考察

本研究により、青年の自己受容の特徴として1) メタ認知的側面、2) 社会性の受容、3) やさしさ、まじめさの受容の3点を上げ、その性差を述べた。

男性の「やさしさ」受容はまじめさと関連しており、自己受容と関連する諸側面全てとの相関が見られることは男性のやさしさの複雑な構造を示しているとも考えられ、その複雑性について今後更に注目していきたい。合わせて、男性には自己受容と関連する「健全な依存性」特性は見られず、やさしさも「まじめなやさしさ」受容として抽出された。まじめさは考えること、メタ的な認知と関連していると考えられることから、男性のやさしさは、考えたやさしさ、つまり、やさしさとはなにか、やさしさをどう表すのかなど一度考える過程があって受容することも推測される。男性の自己受容の「まじめなやさしさ」受容をこの方向から検討することも今後の課題としたい。

女性は「まじめさ」受容と「やさしさ」受容は分化しており、女性は考える過程を踏まずに自分の「やさしさ」を受容していることも推測される。また、女性の関連諸特性因子として抽出された「依存性」特性は甘えとの関連が窺われ、「依存性」特性が菱田尺度の自己受容因子全てと相関していること、特に「弱点大切」受容とそれなりの高い相関を示したことに注目して検討を続けたい。女性の甘えを含む依存性が、沢崎尺度の「やさしさ」受容と相関せず、菱田尺度の4受容因子と相関を示したことは、女性の甘えと関連した依存性は、他人に対する「やさしさ」受容と関係がなく、自分に対する「やさしさ」受容と関連があることを示している。このことにも今後注目していきたい。ただし、一般的に青年が理解している「依存性」の意味を明確にしたうえで検討する必要があると考えている。

今後更に、「自分に対するやさしさ」受容をと甘えの関わりを検討したい。青年の甘えについての意識の中に人間関係を円滑にする甘えや、時には甘えも必要というものがあるが、その甘えは身勝手な「自分好き」につながる可能性もあり、その身勝手さをコントロールするのはメタ的側面であって、厳しさ肯定特性の関わりがあるのではないかと考えられる。また、他人に対するやさしさには、「振り」が関わることもあるのではないだろうか。この「振り」の関与を考えた場合、考

## 菱 田 陽 子

える過程を経た男性の「まじめなやさしさ」に「振り」が関わることも考えられる。ただし、男性の場合にも「考えたやさしさ」ばかりではなく、感じたやさしさのレベルも考えられ、この点にも関心をもって検討していきたい。

これまでの研究では、「自分の他人にたいする」もしくは、「自分の自分に対する」やさしさを検討してきたが、今後、「他人からの自分に対するやさしさ」の側面も考えたい。

## 要 約

本研究では、やさしさを中心に現代青年の自己受容の構造を男女別に明らかにするために、大学生を対象に、質問紙（2種類の自己受容尺度、特性等についての自己評価及び他者評価項目、自己受容に関連すると仮定される諸特性に関する項目）に対する回答を分析した結果、おおよそ以下のような事柄が明らかとなった。

- (1) 2種類の自己受容に関する尺度、及び自己受容に関連すると筆者が仮定した特性に関する尺度について、男女別に因子分析により以下のような因子構造を明らかにした。沢崎尺度については、男性は「まじめなやさしさ」、「現在の自分」、「外見」、「社会的明るさ」、「きょうだい関係」、「ゆとり」の6因子、女性は「社会性」、「外見」、「自分の状態」、「やさしさ」、「まじめさ」、「体力」の6因子からなること、菱田尺度については、男性は「弱点肯定・大切」、「自己愛しさ」、「生へのいたわり」、「弱点理解」の4因子、女性は「自己愛しさ」、「弱点大切」、「弱点肯定」、「生へのいたわり」の4因子からなること、自己受容と関連すると仮定した特性については、男性は「非自立」、「メタ理解」、「内省的葛藤経験」、「厳しさ効果」、「依存的承認欲求」、「非厳しさ体験」の6因子、女性は「楽天的自信」、「非自立」、「厳しさ効果」、「依存性」、「内省的葛藤経験」、「承認欲求」の6因子からなることをそれぞれ確認した。これらは分析前に仮定した構造と相違もみられたが、現代青年の自己受容及び特性の男女別構造を示すものと考えられる。
- (2) 自己評価・他者評価が自己受容に与える影響を明らかにするため、菱田(2003a)による沢崎尺度5因子（「居場所」、「社会性」、「外見」、「やさしさ」、「まじめさ」）とここでの自己受容との相関を男女別に求めた結果、おおよそ以下の事柄が明らかになった。

男性では、自己評価の方がより関連が強いこと、自らを優しいと思っているものほどゆとりを受容していること、各特性を自分がどのように受け止めているかが受容にとって重要な意味をもつこと、他人の評価より、自分で自分を優しいと思っている者ほど自分を愛しく思えること、他人に自分の外見が評価されていると思うほど自分に優しくなれること、女性では、両評価が高ければ自分の弱さを受け入れやすいが自分の弱さを肯定することと関係はないこと、男女とも家庭環境などの居場所、積極性などの社会性の両評価がたかければ自分は生まれてきてよかったという生へのいたわりを受容していること等であった。

男性は自分の「やさしさ」の評価が自分を愛しく思い自分を受け入れることを支え、女性は自分の積極性などの「社会性」の評価が自分を愛しく思い自分を受け入れることを支えていることも明らかになった。ただし、菱田の自己受容尺度は自己受容過程の一部分である自己への



## 現代青年の自己受容に関する分析（2）

やさしさ側面のみを扱ったとも考えられ、今後検討する必要がある。

(3) 自己受容に関連すると思われる諸特性と自己受容因子との相関により、現代青年のやさしさを中心とした自己受容の特徴を明らかにした。

第1の特徴は「メタ認知的側面」であり、メタ的に認知する側面を持つことは男女とも自己受容を支えるが、男性により成熟性がみられ、女性には楽天的傾向が見られること、第2の特徴は「社会性の受容」であり、社会性の受容に「メタ認知的側面」が関連し、加えて女性には健全な「依存性」の関与が特徴的であること、女性の「依存性」特性は他の多くの自己受容因子との相関もみられ女性の特徴として注目する必要があること、第3の特徴は「やさしさ、まじめさの受容」であり、男性では「やさしさ」、「まじめさ」は分化せず女性では分化したこと、男性の「まじめなやさしさ」は構造が複雑であることが予測されること、女性の自分に対する「やさしさ」受容はメタ的な特性と健全な依存性に由来すること、男性は自立性の発達にともない「まじめなやさしさ」を獲得し、女性は自分の厳しい体験によって他人に対する「やさしさ」を身につける傾向が推測されることである。

附記 本稿は、日本教育心理学会第45回総会（菱田、2003b）及び北陸心理学会第38回大会の発表（菱田、2003c）に加筆・修正したものである。本研究を進めるに当たりご指導いただいた金子勲榮先生（金沢大学教育学部）に、心よりお礼と感謝を申し上げます。

## 文 献

- 菱田陽子・金子勲榮 2002 現代青年の自己受容に関する分析 日本教育心理学会第44回総会発表論文集、13.
- 菱田陽子 2003a 現代青年の自己受容に関する分析 北陸学院短期大学紀要第34号、179-196.
- 菱田陽子 2003b 現代青年の自己受容に関する分析(2)ーやさしさの視点からー 日本教育心理学会第45回総会発表論文集、222.
- 菱田陽子 2003c 現代青年の自己受容に関する分析(3)ーやさしさを中心とした性差の検討ー 北陸心理学会第38回大会発表論文集、25-26.
- 宮沢秀次 1979 青年期における自己受容性の研究 日本教育心理学会第21回総会発表論文集、258-259
- 沢崎達夫 1984 自己受容に関する文献的研究(1)——その概念と測定法について 教育相談研究 22、59-67.
- 沢崎達夫 1993 自己受容に関する研究(1) ——新しい自己受容測定尺度の青年期における信頼性と妥当性の検討 カウンセリング研究、26、29-37.
- 高井範子 2000 「ありのままの自己受容」に関する検討ー青年期・成人前期ー 日本教育心理学会 第42回総会発表論文集 454.